

---

# 鍵穴

白田マコ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鍵穴

### 【Nコード】

N2694K

### 【作者名】

白田マコ

### 【あらすじ】

鍵穴の向こうに見えるものは？

耽美とほんのり薄暗い大正浪漫を目指して。

壁にぼつりと、小さな穴。丸に三角、歪いびつな形。

この鍵穴は、不思議な鍵穴なのでございます。

覗くたび、其処にはまあ、違う景色。一度として重ならぬ奇怪な様。

古びた木の棚、乾いた草の香か。白髪白髭の好々爺。

海のやうに深い蒼が、しだいに透明になってゆく優美な曲線ドレエフ。分厚

い縁取り。

金魚鉢には、朱金のドレスの金魚がひい、ふう、み。

斜陽に照らされ泳ぐカレらのその奥に、やはり液体の入った瓶が数本。

そしてああ、その瓶の中、ワタクシを睨み据えたは 虚ろな蛇の、金色こんじきの瞳！

ああ、あれは思えば薬屋だったのでせう。

紅い灯火、緑の酒。

仄ほのく響る白粉おしろいに、甘くすえた華の色。鮮やかな衣の女達。その足首に付けられた鈴。まあ、嫣然と笑む紅唇の妖しさよ、切なさよ。

散りきる間際の牡丹のやうな、泥中に咲く蓮のやうな。染められた爪。男を引き裂き喰らう鬼女のやうな。

ちりちりちりちり、鈴が啼く。

ああ、あれは思えば遊里だったのでせう。

ほかにも、ほかにも。  
数え上げればキリが無い。

祭囃子に橙の提灯。鬼面に隠れた小柄な童。

ねえねえ、アナタ。その面を取つたら、アナタはホントにアナタか  
知ら？

ワタクシの声は届かっただけれど。

雪原に椿。ぽつり、ぼたり、赤い椿。

音すら雪に食われた山深く。

ねえ、ワタクシが遠目に視たそれは、若<sup>も</sup>しかしたら雪に散った血で  
はなかつたか知ら？

嗚呼、巡り、廻り行く奇怪な風景。空恐ろしき光景。美しきものた  
ち。

果<sup>は</sup>て、歪穴の手前、此方側はどうなっているのかですって？

分かりませぬ、分かりませぬ。

だって、此処は真暗で、ほら、鍵穴から差す光すらなければ、ワタ  
クシはこの手すらも見えないのだから。嗚呼、白い手。綺麗な手。  
ちゃんと動かすこともできる。ただ、その関節がむき出しになっ  
ているのが残念だけれども。

小さな箱の中に、ワタクシはずっとと独り。

鍵穴から覗く世界<sup>そと</sup>はいつも輝いていると言つのに。ワタクシはいつ  
もそれを眺めるだけ。

ああ、いつか誰かが此方を覗き込んでくれないか知ら。

いつか、誰かワタクシを出してはくれないか知ら。

古びた桐の箱の中で、ごとり、と微かに物音が鳴った。

(後書き)

「鍵穴」というお題を出されまして。

そしてとにかく明治というが大正というか浪漫というか、そんなものが書きたかったものでこんな感じに。

時代がかった口調や文体は好きです。

秀困気が少しでも出ていたら良いのですが。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2694k/>

---

鍵穴

2010年10月22日00時08分発行